

講評

設計候補者（参加承認番号 6）東北設計計画研究所・梶浦暁設計共同企業体

教室および特別教室を 2 階に集約した機能的な計画が特徴的である。アプローチ、プロムナードから連続する「蔵王ホール」と名付けられた、ゆったりとした空間、そこから吹き抜けのある大階段で 2 階に誘導し、生徒の学びの空間につながる。「蔵王屋根」の下にある教室と特別教室をつなぐ空間は生徒の自由な動きと佇み、活動を引き出す可能性を感じさせる。眺望スペースやランチルームなど単調になりがちな空間に対する工夫・提案も評価される。一体的に計画される体育館・武道場とのつながり、一方で地域開放利用時の計画もそつがない。砂塵対策や景観配慮、生徒減少時に対応した建物運用に対するヒアリング時の回答など意欲的かつ大局的な提案に対しても評価が高かった。

一方で、特別支援教室の配置や、更衣室・トイレの配置には課題もあり、またワンフロアで生活が完結することが逆に生徒の生活展開の幅を狭めてしまう可能性があることなども懸念される場所であるが、今後の基本設計の中で十分対応可能であろうとの判断となった。生徒視点での楽しい学びの空間づくりと適切な学校運営の両立を図るのに十分な提案であり、またそれを実現するに十分な設計力があると判断して設計候補者として選定した。今後は、提案のコンセプトを堅持しながらも、町や関係者との丁寧な協議の中で最適解を追求し、基本設計・実施設計へとつなげていただきたい。学ぶ子どもや蔵王町民の記憶に残る新たなシーンを創出する場の計画、そして蔵王町民が誇れる学校建設の実現を心から期待するところである。

次点候補者（参加承認番号 1）（株）佐藤総合計画東北オフィス

「ございんホール」から連続的につながるアプローチ、「ございんテラス」そして内部の「メディアステップ」まで続く一連の動線と空間は大変魅力的である。「メディアステップ」に新たな学びの展開を期待させる一方で、「学年コモンズ」教室前の空間の魅力創出にける印象があった。また、第 2 段階審査 5 者のうち唯一 1 階に教室群を配置する案は、定石通りの安心感のある的確な提案で高く評価されたが、教室を可動壁で柔軟性を持たせた結果、「S-Pod」と呼ぶ掲示・収納等のスペースが廊下に出てくることで、その空間の自由度を制約してしまった感がある。本来、多目的室を教室 2 室に挟み込みたいところだが、「S-Pod」がそれを制限してしまった感も否めない。体育館との一体的計画も高い評価となったが、教室前の空間のつながりで、その連続性を活かし切れていないと判断された。「メディアステップ」がより教室に近い位置に配置されていれば、全く違った印象となったかもしれない。安心感のある設計体制と各課題に配慮した質の高い提案ではあったが、僅差で次点候補者となった。

総評

3校統合による、新たな敷地での計画という難しい課題に18者が応えてくださったことに、まずは審査員一同、心から感謝を申し上げたい。いずれの提案も課題に真摯に向き合い、今後の町の教育実践において夢と希望を与えるものであった。

第1段階審査の対象となった18者の提案評価において優劣を分けたのは、今後の基本設計を見据えての提案の精度、体育館の配置、屋外運動場の取り方、アプローチのあり方、教室での学びと連続する多目的室や教室前スペースの考え方であった。敷地の理解（景観への視座、自然環境への配慮）や木材利用の観点なども評価のポイントとなった。第2段階審査の対象となった5者の提案はいずれも提案に個性がありながらも、要求された課題に対して的確な提案をし、総合的に評価が高いものだった。

第2段階審査でのプレゼンテーション・ヒアリングはいずれも入念に準備されたもので、質の高いものだった。いずれが設計候補者となっても安心して設計協議を任せられるであろうという確信を与えるものだった。メリハリを付けた採点を心がけた結果、結果的には5者で点差は付いているが、実際の評価は点差ほどではなかった。特に上位2者は拮抗した結果となったが、丁寧な議論の結果、上記の結果となった。

学校建築は建物（ハード）と教育・運営（ソフト）がうまくかみ合って初めてその意味をなす。今回は新しい学校建設ということで、ゼロから新たな教育実践を指向できる可能性も持ちながらも、一方で現実的には3校統合という運営上の数々のハードルを乗り越えること、そして3校のこれまでの教育実践の流れを汲みながら、新たな学校として発展・展開していくことも必要となる。そのバランスのもとでの提案が要求される今回のプロポーザル提案だった。

少子化の中、また教育におけるICT活用や新たな時代の教育実践が求められる中、学校に求められるあり方は大きく変化していくことも予想される。その一方で設計コンセプトが、10年後も20年後も色あせずに残せるような計画も重要である。これから先の数十年の蔵王町の中学生の教育を支える場として、この建物は町の大切な財産となる。5年後の竣工を楽しみに、そのプロセスを見守りたい。

あらためて、本プロポーザルに応募参加くださった皆様に心から感謝申し上げます。総評としたい。

（文責：審査委員長 石井敏）